

第3学年 音楽科 学習指導案

日時 令和5年8月31日(木) 5時間目

児童 北栄小学校 3年2組 18名

指導者 佐藤 理沙

1、題材名 まほうのチャチャチャ

2、題材観(教材観)

この教材は、教科書 p.5「リズムなかまで楽しもう!」の活動経験を生かし、「まほうのチャチャチャ」の歌唱・鑑賞から発展させていくものである。音楽づくりの活動に入る前に、「まほうのチャチャチャ」をラテンのリズムに合わせて歌ったり、ラテンのリズムや楽器の音色などの良さや面白さを考えながら鑑賞する活動を取り入れたりする。

ラテンのリズムに親しんだ後は、音楽づくりの活動を深めていく。5人組を基本に自分が選んだリズムをもとにして重ね方を考えたり、音楽の仕組みの反復や変化などを用いたりして音楽を作っていく。音楽の仕組みは、児童の実態に応じて教師から提示したり、子どもたちが選択したりできるようにするとよい。また、音楽の途中で打楽器だけではなく、声での表現を取り入れるようにすると、より豊かな音楽表現が実現できる。

3、題材の目標

- (1)ラテンのリズムの特徴について、それらの生み出すよさや面白さなどと関わらせて気づくとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な音楽の仕組みを用いて音楽を作る技能を身に着ける。
- (2)リズム、反復、変化、音の重なりを聴き取り、それらの活動が出す良さや面白さを感じ取りながら聞き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え音を音楽に構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽を作るかについて思いや意図をもつ。
- (3)ラテンのリズムで表現することに興味を持ち、音楽を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組み、ラテン音楽やリズムアンサンブルに親しむ。

4、児童の実態

3年2組の児童へアンケートをとったところ、音楽が好きな児童は76.5%だった。また、リコーダーや鍵盤ハーモニカを演奏することや歌を歌うことが好きな児童が多かった。明るく、元気いっぱい、声がよく出る子ども達である一方、場面の切り替えや友達と協力していくことに困難さを持つ児童も多い。

5、題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
ラテンのリズムの特徴について、それらの生み出すよさやおもしろさなどと関わらせて気づくとともに思いや意図に合った表現をするために必要な音楽の仕組みを用いて音楽を作っている。	リズム、反復、変化、音の重なりを聴き取り、それらの活動が出す良さや面白さを感じ取りながら聞き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え音を音楽に構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽を作るかについて思いや意図をもっている。	ラテンのリズムで表現することに興味を持ち、音楽を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組み、ラテン音楽やリズムアンサンブルに親しむ。

6、指導計画と評価計画（4時間扱い）

	指導内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	○五つのリズム・パターンを手拍子で打ったり、声で唱えたりする。 ・一つずつ丁寧に確認したり、①～⑤を順に打ったり、ランダムに打ったり、①から順に重ねたりする。 ・リズムのつながり方や重なり方を練習する。	リズムの特徴についてつかむ。		まほうのチャチャチャのイメージを膨らませ、進んで学習に取り組もうとしている。
2	○選んだリズム・パターンを「まほうのチャチャチャ」に合わせて打つ。 ・「まほうのチャチャチャ」に合わせて選んだリズム・パターンを打ち、同じリズム同士で集まる。(①と②に限定する) ・楽器の紹介をする ・楽器を決めておく。 ・つなげ方や重なり方の例を提示する。 ・つながり、重なりを練習する。 ・ワークシートへ書き込む。	ラテンのリズムの特徴について、それらの生み出すよさや面白さなどと関わらせて気づいている	リズムに合った楽器を選んでいる	
3 (本時)	○6人組でリズムを重ねたり、音楽の仕組みを用いたりして音楽をつくる。 ・様々なつなげ方や重ね方を試しながら音楽をつくる。 ・反復や変化などの音楽の仕組みを用いて音楽をつくる。	思いや意図に合った表現をするために必要な音楽の仕組みを用いて音楽をつくる技能を身に付けている。	リズム、反復、変化、音の重なりを聴き取り、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。	ラテンのリズムで表現することに興味を持ち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。
4	○クラス全体で発表会をする。 ・リズム、反復、変化、音の重なりなどの工夫を聴きあう。 ・お互いのリズムでよかったところを出し合う。 ・聴いた感想をまとめ、これまでの学習を振り返る。		グループごとにイメージしたまほうのチャチャチャと表現することができる。	

7、本時の目標

様々なつなげ方や重ね方を試しながら、反復や変化など音楽の仕組みを用いて表現することができる。

8、本時の展開（3／4）

	<p>学習内容</p>	<p>教師の関わりと評価規準・具体的評価方法 ☆共通事項を知覚・感受するための手立て ※指導の留意点 △目標に達していない児童への支援 □具体的評価規準【 】評価方法</p>
<p>導入</p>	<p>1, 体ほぐし ・手拍子、ボディーパーカッションでリズム打ちをする。 2, 前時の振り返りをする。 3, 本時の学習の課題を知る。</p>	<p>☆リズムのパターンを手拍子や声で変化を感じながら表現する。[リズム、反復、変化] ・グループごとに、「まほうのチャチャチャ」に合わせて、リズムをつなげたり重ねたりしていくことを確認する。</p>
<p>展開</p>	<p>4, グループで考えたイメージに合う楽器を選ぶ。 5, 楽器を選んだあとに、グループでリズムの練習を行う。 ・ワークシートに選んだ楽器とリズムを記入する。 6, 中間発表をする ・リズムのパターンを紹介する。 ・次回の発表に生かす。</p>	<p>☆打楽器を自由に触れるように音楽室に並べておく。(カスタネット、タンバリン、クラベス、ウッドブロック、マラカス、カウベル、アゴゴ、すず) ※楽器は、グループの中で自由に選ぶことを伝える。 □自分たちのイメージに合う楽器を選んでいるか 【活動の様子】 △リズム打ちが上手くできない児童には、手拍子や声でリズムを練習するなど拍を意識させたアドバイスする。 □自分たちのイメージをもとに、リズムの変化を感じ取り、自分たちなりの表現活動を楽しんでいるか。【活動の様子、動画、ワークシート】</p>
<p>まとめ</p>	<p>7, 学習のまとめをする。 ・ふりかえりをワークシートへ記入する。</p>	

くふうして、自分たちのオリジナルのまほうのチャチャチャをつくろう。